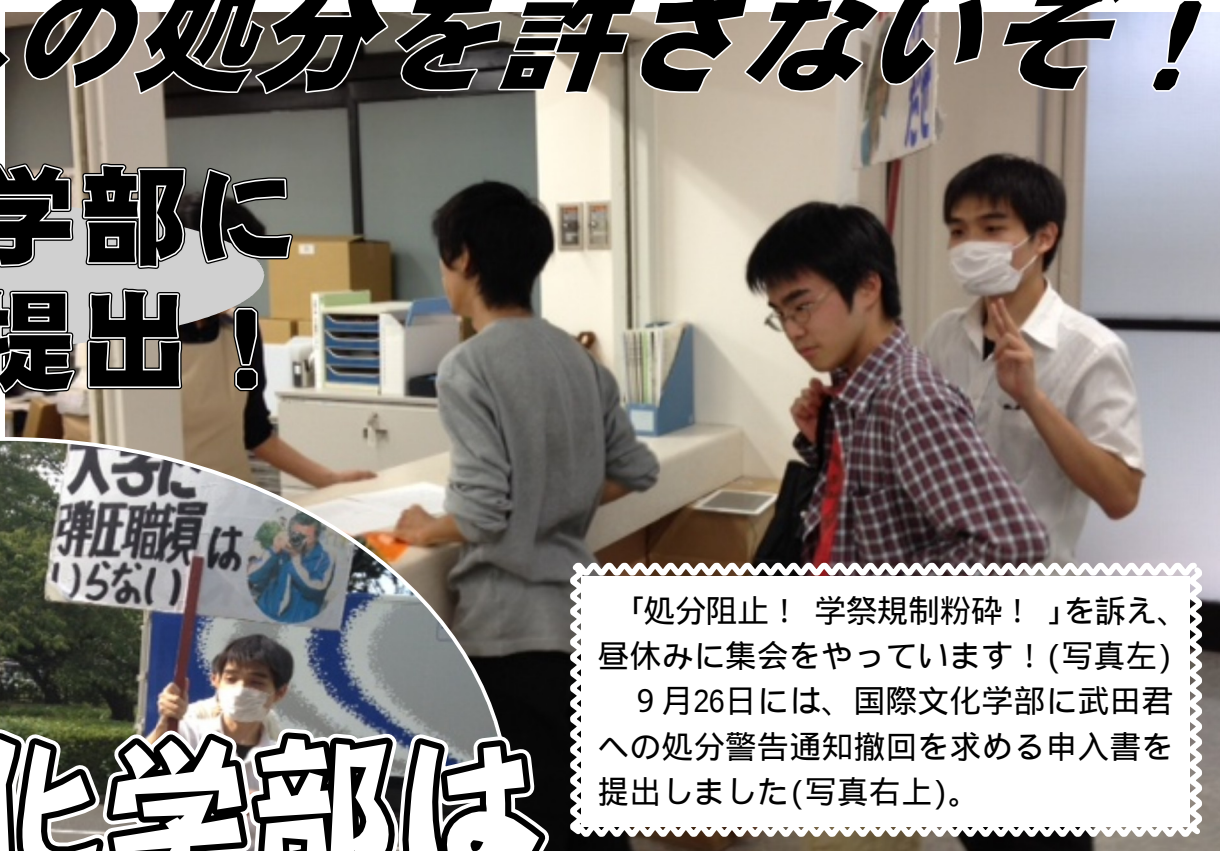


# 武田君への処分を許さないぞ！

## 国際文化学部 に 申入書を提出！



「処分阻止！学祭規制粉碎！」を訴え、昼休みに集会をやっています！（写真左）  
9月26日には、国際文化学部で武田君への処分警告通知撤回を求める申入書を提出しました（写真右上）。

## 国際文化学部は

# 通知を直ちに撤回しろ！

### キャンパスから9・28首相官邸前へ！

すべての法大生みなさん！私たちの行動で社会を変える時代がやってきました。毎週金曜日、首相官邸前に数万の人々が集まり、福島の人々を先頭に抗議行動が闘われています。それは何よりも、野田政権への怒りです。

野田政権は、9月11日の閣議で原発推進派の田中俊一ら5人を国会の承認なしに委員に任命し、9月19日に原子力規制委員会を発足させるという暴挙に踏み出しました。反原発の声がますます大きくなる中で、野田政権や経団連は、「国民生活を守るため」と絶叫して、福島を先頭とする原発反対の声を抹殺し、原発を再稼働して核燃料の再処理を継続しようとしているのです。絶対に許せない！

原発をめぐる闘いは、まさに今が正念場です。



9・25 原発推進の総本山・日本経団連前に1300人！

### 大学を変える学生のなかにある！

首相官邸前を先頭に全国各地で反原発の行動が爆発している一方、大学はどうでしょうか。福島県立医大は、福島の子供から甲状腺ガンが発見されても、「放射線の影響ではない」と言いなり、政府の原発推進のお先棒を担いでいます。「3・11」以降明らかになった大学の腐敗の象徴がこのような「御用学者」です。この現実まさに、法大の中にもあります。弾圧職員がビラまきを監視し、授業では教授が「原発反対の署名をするな」「関わるな」と恫喝する。そして、学祭規制に声をあげる武田君への見せしめの処分を狙っています。これが大学がやることなのか！この大学の現実を学生の力で変えることは、原発をなくし、社会を変えることと一つです。11・4には「反失業×反原発」の全国労働者集会（日比谷野外音楽堂）、11・11には首相官邸前100万人行動が呼びかけられています。私たち学生は、この秋の闘いの先頭に立とう！10・19法大デモを爆発させよう！

## 反原発・首相官邸前行動

9月28日(金) 18～20時

文化連盟のオレンジの旗に集まろう！

# 全学連

全日本学生自治会総連合(斎藤郁真委員長)

TEL 03-3651-4861 <http://www.zengakuren.jp/> mail\_cn001@zengakuren.jp

# 国際文化学部は10/5に回答せよ！

## 申し入れ書

7月29日に私の実家に国際文化学部名義で、「迷惑行為の禁止について」と題された文書が送られてきました。2012年の前期において、私は法政大学の学生として、また社会科学研究会に属する一サークル員として、サークル仲間や友人と共に、自主法政祭での全面飲酒規制をはじめとする「八項目規制」に反対し、規制反対の呼びかけを行ってきました。これらの規制が、自主法政祭を自主法政祭たらしめている学生の主体性や、自治意識を根こそぎ解体するものだと感じたからです。

しかしながら5月に行われた意見交換会や、6月15日の学祭説明会、7月13日の全学説明会の場において、私たちは規制反対の意見を表明すべく会場に入ろうとしたところ、学友会主催行事実行委員会（以下学祭実）によって不当にも遮られ、会場から排除されました。私たちは学祭実に排除の理由を問い質しましたが、学祭実側は「文化連盟傘下のサークル員は会場には入れません」「文句があるなら後に書面でのみ回答する」の一点張りです。6月15日の学祭説明会や7月13日の全学説明会にいたっては、私たちの質問に対し完全に沈黙し会場前で阻止線を張っていました。もちろんこの間から現在にいたるまで、学祭実側から私たち社会科学研究会と私の友人達に対して、排除の理由を説明した書面での回答は一切ありません。

またこうした学祭実側の暴挙に抗議する私に対し、6月12日と7月10日といういずれも学祭説明会と全学説明会を直前に見据えた日程で、国際文化学部長から「学部理念の見直し」なる理由で呼び出しがかりました。国際文化学部長は「国際文化学部は中立の立場である」と断ったうえで「学祭実を批判するのに写真をとるのはやりすぎではないか」「同じ学生なんだから、もっと穏やかにいこうよ」などと学祭実側の暴挙には一切言及せず、一方的に私に学祭実への抗議の手を緩めるように勧告してきました。6月15日の学祭説明会では学生センターの職員と共に15名余りの国際文化学部の教授たちが、7月13日の全学説明会にはそれに加え国際文化学部長と同学部副学長も来て、会場前で抗議している私たちに「迷惑だから学祭実への抗議をやめろ」と勧告してきました。

このような経緯を通して7月25日付けで私に対して「迷惑行為の禁止」なる文章が送られてきているのであって、よってこの文章の内容はとてもではありませんが、私ほか社会科学研究会一同と私の友人含め全く承服できません。

まず国際文化学部の姿勢として一貫して、そもそもの発端である学祭実による私たち社会科学研究会と、私の友人たちへの排除には触れず、この文書でも一方的に私たちの行動だけを「迷惑行為」と非難しています。そしてこの「迷惑行為」なるものも、私たち社会科学研究会や私の友人を会場から不当に排除したことへの学祭実に対する抗議であって、断じて個人を誹謗中傷するものではありません。多額の予算を使って、自主法政祭を運営する公職たる学祭実への撮影や写真のピラへの掲載は、正当な権利として認められるべきです。

一方、この文書では学生センター職員が、日常的に私たち社会科学研究会や私の友人に行っている無許可での撮影や、尾行、いやがらせ、および6月15日における学祭説明会会場前での私に対する学生センター長の暴行等の迷惑行為は一切棚上げされています。そして私たちへの「迷惑行為の禁止」の対象自体は、文書の1番で学祭実のみならず大学教職員にまで不自然に拡大されています。このように中立を謳う国際文化学部の名義で送られてきた文書の内容として「迷惑行為の禁止について」はあまりに一方的で、学部長の名前すら記されていない時点で、まずもって私に対して失礼でさえあると思います。

まして、「万一、これに従わず（中略）本学部は学則に基づいて厳正なる処分を行う」という文言は、文書の内容と照らし合わせた時に、実質的に学祭実や大学教職員に対する一切の批判行為を封殺せんとする悪質きわまりない脅迫だと受けとらざるをえません。

以上の理由から、私は国際文化学部「迷惑行為の禁止」と題された文書をただちに撤回することを強く要求し、これについての回答を2012年10月5日に求めます。

国際文化学部3年 武田雄飛丸  
人間環境学部3年 山本一如  
国際文化学部3年 平野雄大

# 10/19 法大デモ×官邸前

<主催> 文化連盟、全学連 法政大学市ヶ谷キャンパス正門前集合 12時40分～